

令和三年度東京都立松が谷高等学校第三十九回卒業式 校長式辞

本日ここに、令和三年度東京都立松が谷高等学校第三十九回卒業式を挙げるに当たり、ご多用中にもかかわらず、保護者の皆様のご臨席を賜りましたことを、心よりお礼申し上げます。保護者の皆様には、立派に成長されたお子様の晴れの姿をご覧になり、今日までの日々を思い返し胸を熱くされているのではないかと拝察いたします。お子様のご卒業を心からお慶び申し上げます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ただ今、314名の皆さんに、卒業証書を授与いたしました。

皆さんの松が谷高校での3年間を振り返ると、最初の1年間と次の2年間はまったく別の世界で暮らしている感覚だったのではないのでしょうか。1年生だった3月に新型コロナウイルス感染拡大により全国一斉休校となり、2年生になった直後に一回目の緊急事態宣言が発令され、休校期間が延びました。6月から分散登校が始まりましたが、学校行事や部活動に様々な制限があり、修学旅行の中止も余儀なくされました。しかしコロナ禍と言われるこの状況だからこそ、皆さんが学んだことも少なくないのではないのでしょうか。そのような中でも何とかできることを最大限にできるよう、代表生徒や先生方が中心となって文化祭や体育祭を学年ごとに実施しました。特に学年団の担任の先生方が、皆さんを暖かく見守っていてくれる姿が私にはとても印象的でした。

さて先日、新聞の経済面でこんな記事を読みました。昨年末に放映されたNHK紅白歌合戦の視聴率が過去最低だったそうです。近年の若者のテレビ離れの状況を考えると特に驚くことではありません。中でも「Z世代」（ABCのZですね）と呼ばれる、1990年半ばから2010年頃までに生まれた世代、つまりまさに皆さんの世代は、高度なインターネット社会で育ち、スマホを使いこなすデジタルネイティブ世代と言われます。この世代の多くが紙メディアはもちろん、テレビもあまり見ず、情報源はほとんどがネットであるとされています。そんなZ世代が近年、新たな流行を生み出し、今後の消費活動の中心を担う層として多くの企業の注目を集めています。彼らは人とのつながりを重視する傾向が強く、その延長として社会とのつながりにも高い関心を持ち、社会貢献活動やSDGsにも積極的に関わっていかうとする考えを持っています。購買活動もマスコミ情報より友人や知り合い、フォローするインフルエンサーのロコミ情報を信頼する傾向が強い。Z世代は、現在日本の人口の14%程度ですが、彼らが消費活動の中心を担う時代に入るのに備え、今のうちに取り込んでおきたいという企業の動きが活発になっています。例えば、彼らがSNSなどで発信したくなる「映え（ばえ）」を意識したデザインやメニューをそろえた回転ずしが原宿にオープンしたり、持続可能な農法の支援をうたい、環境に優しい紙パックを使用した清涼飲料水が発売されたりしています。今後、どんなZ世代向けの商品やサービスが登場してくるのか楽しみであるという内容の記事でした。

私はこの記事を読んで、時代の変化と皆さんの世代への大きな期待を感じました。本日ここに卒業を迎え、Z世代として新たな時代に飛び込んで行く皆さんに送るメッセージとして、私は昔からの教えを踏まえながら、こうした時代の変化と期待に応えてほしいという気持ちを込め、中国の古典からのお話をしたいと考えています。それは、「不易流行」という言葉があるように、「流行」という変化する部分と、「不易」という、いつの時代も変わらない部分をバランスよく持つことで、充実した人生を送ることができる、と私は考えているからです。

皆さんは今、着るものや食べるものに不自由していません。恵まれた環境にいます。そのように十分あることを「足りる」と言います。そして着るものや食べるものが十分あって、人は初めて礼儀や節度をわきまえることができるという言葉が、なんと今から2,700年前に言われているのです。

こんな言葉です。「衣食足りて礼節を知る」。きっと皆さんも聞いたことがあると思います。現在、皆さんが使っている言葉は、昔の人からつながっています。古い言葉はわかりにくいけど、その言葉の持つ意味や働きは、今に引き継がれています。時には、最初のときの意味合いから変化して、現在を生きる私たちに合うように使われているのです。

この言葉も、そのように変化して使われています。私は、長くこの言葉が自分の身の回りをきちんとすることから礼儀が生まれるものと解釈していました。ちょっと勝手な解釈ですね。今回、皆さんに昔から伝わるよい言葉を紹介しようと、もう一度調べてみたところ、何と政治家が民を養うためにこの心構えが大切だと説いた言葉だと知りました。恥ずかしいです。本当の意味は、「民を養うための政治家の心構え」であり、庶民の言葉ではなかったのです。正しいわれを知り、これを私は現在の生活に生かしたいと思いました。聞いてください。

2,700年前、中国の管仲（かんちゅう）という人が、斉（せい）の国の政治を任されました。管仲は、分

かりやすく実行しやすい決まりを作り、民衆の欲するものはこちらから与え、民衆が嫌がることは取り去るようにしたといいます。そのおかげで国が栄えたそうです。そのときに言っていた言葉を、後の学者が文章にまとめたものが「管子」という政治の考えの書物です。そのなかの「牧民篇」の一番目にこの言葉があります。君主たる者が考えるべきことが書かれています。君主とは、国を治める人です。日本語で解釈したものを読みます。

「広く一般に、土地を領有して人民を養い始める君主たる者は、春夏秋冬の四季に応じて政令を下すことを任務とし、穀物の倉庫を充実させることにその責任がある」と書き始めています。そして、「穀物の倉庫が充実すれば、人民は礼儀や節操を身に付けるようになり、衣食の日常生活が充足すれば、荣誉と恥辱をわきまえて行動するようになる」と続きます。

難しいところもありましたが、人民の生活を大切にすることで、人民の心を育てようとしていることがわかります。2,700年前の政治家の考えです。驚きますね。豊かな国は、人民の心の豊かさが作る。そのためには、人民の衣食を十分に整えることこそ、政治家の役目と言っているのです。礼節は礼儀と節度のことです。皆さんも礼儀の大切さは、ご家族の方や先生方から聞いて知っています。節度とはちょうどよい程度のことです。相手や場を意識して、ちょうどよい応じ方ができることです。

皆さんには、これから世の中でたくさん学んでいく中で、政治や社会の在り方として人の心を育てる根本を考えてほしいと思います。皆さんの中からは、多くの人をまとめる役目を持つ人、リーダーとして活躍する人も出てくるはずですが、その人はもちろんのこと、皆さん全員にお願いします。上から厳しいきまりを押し付けるのでは人の心は動かないということです。日常生活を豊かにすることが、人の礼儀や節度を育てていくのです。人の嫌がることを取り除いて、日常生活を大切にすることによって未来を切り開いてください。

そうすることで一人ひとりが成長し、集団が成長し、社会が良い方向に進みます。きょうここで松が谷高校から旅立つ皆さんは、夢を実現したいと願っている仲間なのです。Z世代である皆さんに、私は「衣食足りて礼節を知る」という言葉を贈ります。

最後になりましたが、あらためて保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。お子様は、人生の中で心身の変化が最も激しいときである高校での三年間を終え、このように身体も心も立派に成長され、今、学び舎を巣立とうとしています。さぞかし感無量のこととご拝察申し上げます。またこれまでいただいた本校へのご支援とご協力に対し、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

そして卒業生の皆さんに最後に一つお願いがあります。これは毎年、卒業生にお話していることですが、今日、自宅に戻ったら、ご家族の方に一言、「今までありがとう」と伝えてください。

結びに、在校生、教職員、保護者の皆様と共に、卒業生の皆さんの「輝く未来」にエールを贈り、式辞いたします。

令和四年三月五日

東京都立松が谷高等学校長 博田 英明